

1991年度フリーハンデ決定

●1991年のフリーハンデは、美浦、栗東の8人のハンデキャッパーが討議の末、4歳馬、5歳以上、短距離、3歳馬の4部門が別表のように決定した。

一冠馬トウウカイテイオーは55キ。
5歳以上のメジロマツタライオン、
短距離ダイイチルビーはと書いた55キ。

（ハンデキャッパー）
●美浦トレーニング・センター
朝日真道、石野明、甲斐真、井上真
●栗東トレーニング・センター
甲佐勇、滝澤勇、西田研、尾関道春

4歳馬

レオダーバン61キ。イブキマイカグラとナイスネイチャは並べて60キ。

91年の4歳牡馬G1戦線は、たった1頭の馬のリタイアのために春と秋で様相が一転してしまった。もちろんその馬とは皐月賞とダービーを連覇したトウカイテイオーであり、彼がもし秋も無事に走っていたらと思いを巡らせるのは、競馬ファンのみならずハンデキャッパーとして同じだった。春に比べると秋の一連のレースは全体的に物足りなかつたという声に多くの賛同が寄せられたのも、もちろんそれを念頭に入れてのことである。

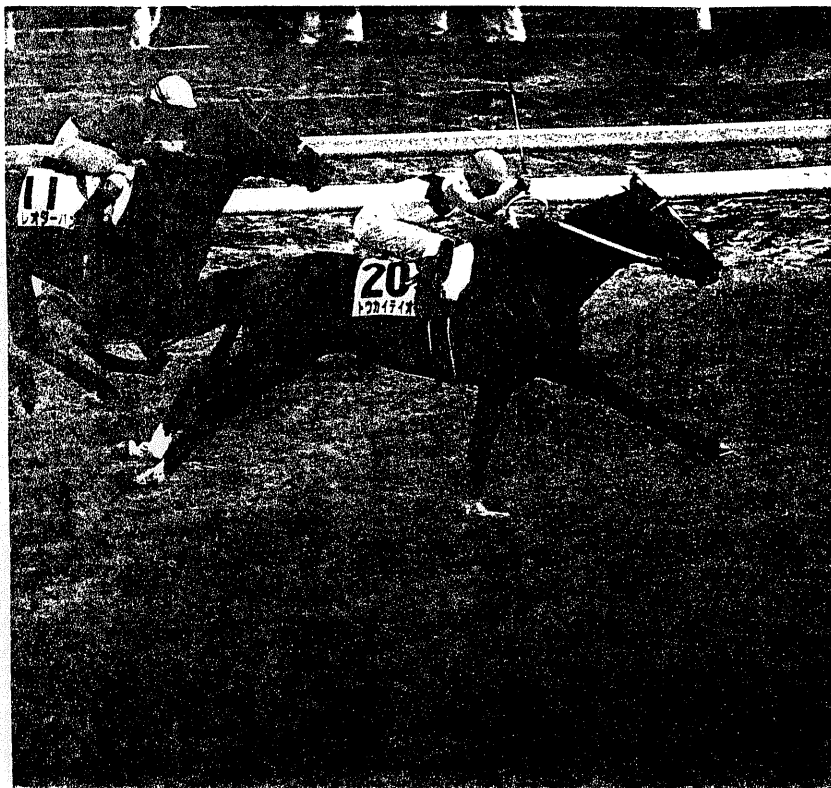
まず最初に検討されたのが、今年の4歳馬のレベルだった。基準となったのはナイスネイチャの暮れの2戦で、古馬相手のハンデ戦である鳴尾記念は57キを背負って完勝、有馬記念も僅差の3着にきていることを思えば、少し高めに考えてもいいのではという意見も出された。菊花賞でナイスネイチャに先着したレオダーバンやイブキマイカグラが有馬記念に出走していたら、いわんやトウカイテイオーが出走していたらと話は膨らんでいたが、その反面、91年は古馬陣がかなり頼りなかつたという認識では異論がなく、また4歳馬も決して層が厚かつたとは言いがたし、例年並みのレベルということでは意見はまとまった。

そうなるトウカイテイオーはやはり、抜けた存在だったトウカイテイオーの評価だ。ここでは当初、多少なりとも見解が分かれた。皐月賞、ダービーともに大外枠ながら、余裕を持って抜け出したレースぶりには力が一枚も一枚も上だからできることであり、ましてダービーに限れば父親のシンボリドルフよりも強い勝ち方を

したと見る積極派は、春シーズンにトウカイテイオーの後塵を拝したレオダーバン、イブキマイカグラが菊花賞で1、2着している事実から、過去の三冠馬に準ずる評価を寄せた。しかし消極派は皐月賞まで一線級との対戦がなかつたこと、現実にはタイムはふたつしか取っていないこともあり、過大評価を避けようとしてくまで慎重な姿勢を崩さなかつた。

そこで参考にしたのが、過去のG1 2勝の4歳馬である。具体的にはカツトツプエース（皐月賞、ダービー）、ミホシンザンとサクラスターオー（皐月賞、菊花賞）、ダイナガリバー（ダービー、有馬記念）で、このうち全体的にレベルの低い世代とされたカツトツプエースを除けば、残り3頭には64キがつけられている。そして三冠馬ではミスターシービーが65キ、シンボリドルフが67キとなると、最低でも64キの評価はできるとして65キ以上の評価はどうかに絞って議論された。例えばミホシンザンにしても、ダイナガリバーにしても、取りこぼしがあり、それからすると無傷でふたつのタイムルを手にしたトウカイテイオーは、全く危なげのないレースぶりとともに評価すべきだとの結論が出され、実績では64キが内容を加味すれば65キが妥当ということと決着を見た。

さてここで問題となつたのが、リンドシーバーの扱いだった。今年も2戦のみ、しかも弥生賞はイブキマイカグラの首差2着だったものの、勝ち星を挙げたのが1400mのオープン特別だったこととあり、短距離部門へ回してもどういふ意見もあつた。結局、イブキマイカグラより下位に置くことに異論はないとして、イブキマイカグラとの比較で同格に置くべきか、それとも1キ上に見るか検討され、やはり実績面から同格とする見方が大勢を占め、58キで意見はまとまった。



トウカイテイオー

続いて牝馬に移った議論は、今年のレ

ベルをどこまで高く見るかで白熱した。

ノーザンドライバーのベガサスS勝ち

や、ダンスダンスダンスの皐月賞5着を

見るまでもなく、春先だけを見れば稀に

見る高レベルだったのは間違いない。

しかし有力馬の相次ぐリタイアや調子

落ちは如何ともしがたく、徐々に尻すば

みになっていった感拭えないとして

も、シスタートウショウの桜花賞勝ち、

オークス2着は戦ったメンバーを考えると

昨年と比べると評価され、59⁺に決まっ

た。

インソルブルは強さという面でシス

タートウショウに一步引けを取り58⁺、

リンデンリリーのG1勝ちが春に比べ見

劣りする秋のメンバーが相手だったこと

でさらに1⁺下の57⁺となったが、それ

でもエイシンサニーやライトカラーとい

った過去のオークス馬の56⁺よりも上位

に評価された。

なお以下の馬については別表を参照し

ていただきたいのだが、フリーハンデの

対象となった33頭のうち、関東馬はわず

か2頭を数えるのみで、改めてここでも

西高東低を反映する結果となっている。

5歳以上総合

メジロライアン、ダイユウサクが 並べて61キロ。プレクラスニーは60キロ。

メジロマックイーン、メジロライアン、
ホワイトストーンの3強を中心とし
た高いレベルでの激戦が期待されてい
た91古馬戦線であるが、後半戦のメジロ
ライアンの故障休養、ホワイトストー
ンの低迷などもあり、全体としては内容の
乏しいものに終始してしまっ

た。その中で、一年を通じて大崩れなく活
躍したメジロマックイーンにはトップ
ハンデの評価が与えられた。

春の天皇賞を圧勝、宝塚記念、有馬記
念に2着、JCでも日本馬最先着の4着
そしてふたつのG1勝ちという実績は、
例年のトップと比べても、決して劣るも
のではない。この馬については第1着で

'91年フリーハンデ 4歳馬

65	⊗トウカイテイオー
61	⊗レオダーバン
60	イブキマイカグラ ナイスネイチャ
59	※⊗シスタートウショウ
58	⊗イデセゾン
	※⊕インソルブル
	⊗リンドシェーバー
57	コガネパワー
	⊗シンホリスキー
	※⊕リンデンリリー
56	⊗シャコーグレイド
55	⊗スタビライザー
	⊗ストロングカイザー
	⊗ダイナマイトダディ
	※ノーザンドライバー
	⊗フジヤマケンザン
54	イデサターン
	※スカーレットブーケ
	※ツインヴォイス
	ツインターボ
	※ヤマノカサブランカ
53	※⊗イナズマクロス
	カミノスオード
	キョウワユウショウ
	⊗⊕ソーエームテキ
	※⊗ヤマニンマリーン
	ロングタイトル
	※⊗キタノオゴジョ
	※ダンスダンスダンス
	※⊕テンザンハゴロモ
	※⊗フラッシュシャワー
	※⊕マチノコマチ
52	

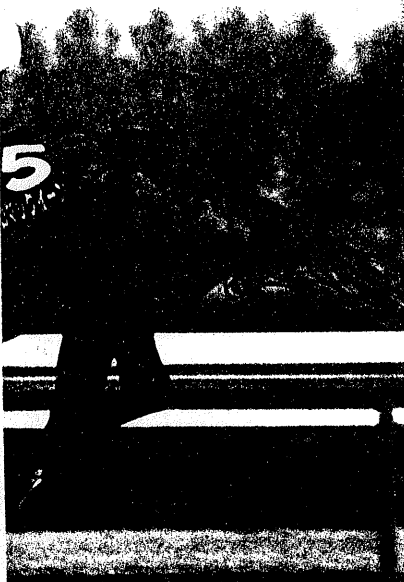
(計33頭)

※牝馬 ⊕父内国産馬 ⊕抽せん馬 ⊕公営出身馬 ⊕市場取引馬 ⊕外国産馬

入線しながら斜行のため18着降着となっ
た秋の天皇賞の成績をフリーハンデでど
う取り扱うかについて議論がなされ

た。その中で、一年を通じて大崩れなく活
躍したメジロマックイーンにはトップ
ハンデの評価が与えられた。

春の天皇賞を圧勝、宝塚記念、有馬記
念に2着、JCでも日本馬最先着の4着
そしてふたつのG1勝ちという実績は、
例年のトップと比べても、決して劣るも
のではない。この馬については第1着で



メジロマックイーン

「降着制度は、そのレースで馬が示した
能力を最大限に尊重するために設けられ
たもの。その原則からすれば、降着にな
った着順はフリーハンデでも尊重される
べきではないのか」

ふたつの意見が出されたが、結論とし
ては、あの天皇賞の降着という事実を頭
の片隅に入れつつ、メジロマックイーン
の評価を下すこととなった。

さて、メジロマックイーンのフリーハ
ンデであるが、89年に65⁺の評価を得た
イナリワン、オグリキャップと比べて実
績的には劣るところはないが、戦ってき
た相手関係、そのレース内容に不満が残
るとい理由で、それより下に見たい、
というのが出席者の一致した見解であっ
た。

「春の天皇賞、そして阪神大賞典、京都
大賞典で示した力の差は圧倒的であつた
が、JC、有馬記念の最後の2走で露呈
した。決め手のなさ、は大きなマイナ
材料であつた」

「JCでの位置取りからして、本当に強
い馬であつたららもっと上位に喰い込ん
だはずである。上位2頭は仕方がない
にしても、マイラータイプのアセアニア
地区招待馬(シャフツベリアヴェニュー
1)にも先着を許したのは大いに不満だ」

出席者の意見はメジロマックイーンに
とっては厳しいものであつた。64⁺か63⁺
か? 激論が予想されたが、意外にア
ツサリと63⁺に決定された。

メジロマックイーンに続く次位評価の
馬はメジロライアン、ダイユウサク、プ
レクラスニーの3頭。

秋シーズンは故障に泣いたが、メジロ
マックイーン、ホワイトストーンとの3
強対決となった宝塚記念を制したメジロ
ライアンは、そのレースぶりが高い評価

を得た。メジロマックイーンを力てねじ伏せたレース内容は、この馬の持つ高い資質を改めて感じさせてくれるものであった。中山記念の取りこぼし、有馬記念の大敗はマイナス材料であるが、大台キープの61⁺がメジロライアンに与えられた。

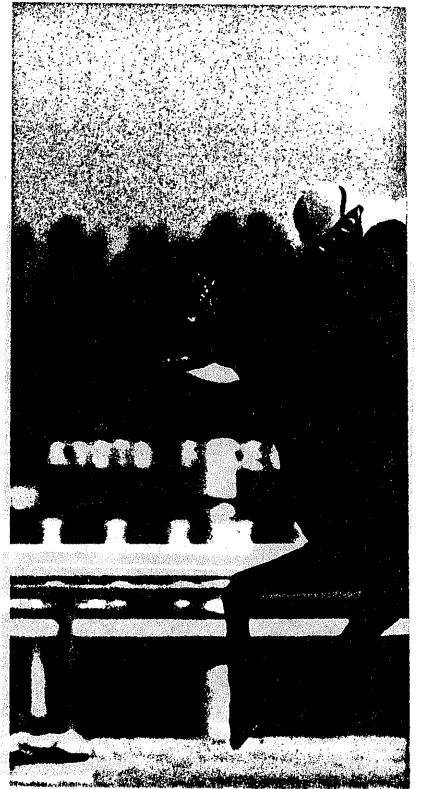
誰もが驚かされたのが有馬記念のダイユウサク。この馬にとっては、全ての歯車がかみあって最大限の能力を発揮したレースであったが、レース内容、2分30秒6のレコードタイムとも申し分のないものであった。

確かに成績にはムラがあるが、1月の金杯、12月の阪神競馬場新装記念での強い勝ち方も評価され、メジロライアンと同じ61⁺が与えられた。

もう1頭、60⁺の大台に乗ったのが、秋の天皇賞馬プレクラスニー。このレースはメジロマックイーンの降着による繰り上がり勝利であったが、エプソムC、毎日王冠と重賞2連勝は見事な勝ちっぷりであった。

有馬記念では距離の壁を感じさせたが、1800⁺前後では、素晴らしい実力を示した馬であった。

マイル路線でその実力を存分に発揮したダイタクヘリオスは、マイラーズC（中京・1700⁺）、高松宮杯をマイル



を超えるふたつの重賞を制し、毎日王冠でも2着、有馬記念も5着と健闘し、たことを評価して、この総合部門でも59⁺とした。

現役屈指の個性派で、評価するのが難しい馬でもあるが、折り合いが良ければ、長い距離もこなせる馬である。

ダート馬のイメージをすっかり払拭した感のあるカリブソングには58⁺。スピード、瞬発力の勝負になった時の限界は示したものの、60⁺の重い負担重量を背負って勝った目黒記念には高い評価が与えられた。

90年1歳時に60⁺のフリーハンデが与えられ91年も大きな期待がかけられていたホワイトストーンは、緒戦の産経大坂杯こそ、その強さを遺憾なく発揮したも

の、その後は完全な尻すばみ、大きく期待を裏切ってしまった、58⁺の評価に止まった。

57⁺には、好メンバーが揃った目黒新春杯を勝ったメルシーアトラがランクさ

短距離

ダイタクヘリオスは62キ。
4歳馬ケイエスマミラクルは60キ。

いささか低調であった古馬戦線に対して、短距離部門では好メンバーによる中身の濃いレースが繰り広げられた。

以前は、短距離馬は中・長距離馬より一枚下という印象を持つ人も多かった

れた。

56⁺には、京都記念のプリンスシン、アルゼンチン共和国杯のヤマニングローバル、函館記念のメジロマーシヤス、ステイヤーズSのメイショウビトリアの4頭の関西馬がランクされた。

牝馬の最高はアメリカJCCのメジロモントレート、中山記念、中山牝馬Sと勝ったユキノサンライズの55⁺。ともに、牡馬に混じってのGI勝者が高く評価された。

以下の馬たちに関しては別表を参照していただきたいが、フリーハンデの対象となった全38頭中27頭を関西馬が占めた。4歳と同様にこの部門でも、西高東低の傾向が強く現れていた。

91年のこの部門で最上位にくるのが、安田記念、スプリンターズSとふたつのGIを制し、マイルCSでも2着になったダイイチルビーであることは衆目の一致するところであった。

では、ダイイチルビーを何にするか？ 90年はマイルCSを勝った同じ牝馬のパッシングショットが61⁺。当然、ダイイチルビーがそれより上になることは明白である。ここでいくつかの意見が出された。

「ダイイチルビーにもし64⁺を与えたとしたら、単純に牝牝のセックス・アローワンスの2⁺を考慮すると、過去最高の

'91年フリーハンデ 5歳以上

- | | |
|----|------------|
| 63 | ⊗メジロマックイーン |
| 61 | ダイユウサク |
| 60 | ⊗メジロライアン |
| 59 | プレクラスニー |
| 58 | ⊗ダイタクヘリオス |
| 57 | ⊗カリブソング |
| 56 | ⊗⊕ホワイトストーン |
| | メルシーアトラ |
| 55 | ⊗プリンスシン |
| | ⊗メイショウビトリア |
| | ⊗メジロマーシャス |
| | ⊗ヤマニングローバル |
| | ⊕⊕キリサンシー |
| | ミスターアダムス |
| | ミスターシクレノン |
| | *⊗メジロモントレー |
| 54 | *⊗ユキノサンライズ |
| | オースミシャダイ |
| | ⊗カミノクレッセ |
| | タイイーグル |
| | ナリタハヤブサ |
| | ムビースター |
| | ラッキーゲラン |
| 53 | レッツゴーターキン |
| | ゴースイン |
| | ⊗⊕ショウリテンユウ |
| | トウショウバルカン |
| | *⊗ヌエボトウショウ |
| | ⊗ハシノケンシロウ |
| | *⊗メインキャスター |
| | *⊗リストレーション |
| 52 | *⊕イクノディクタス |
| | シーキャリアー |
| | *⊗センゴクヒスイ |
| | ノースシャトル |
| | ⊗メジロパーマー |
| | *⊗ヤグラステラ |
| | ⊗ヤマニンシアトル |

(計38頭)

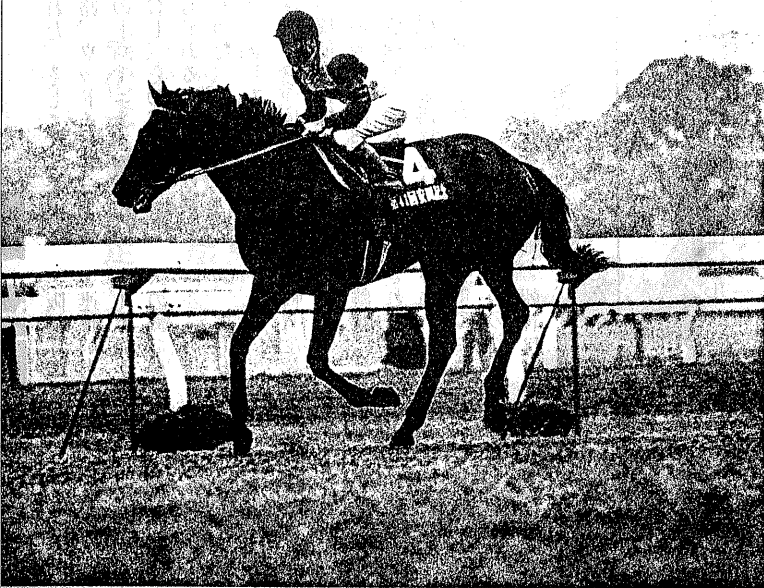
ニホンビロウイナーに並んでしまっただつのG1勝ちがあり、マイル以下はハーフエクトのニホンビロウイナーに並べるには無理があるので、ダイイチルビーは63か62だろうか？」

「63なら、88年のニッポーターイオサッカードボイと並んでしまおう。ダイイチルビーが果たしてこれらの名馬と並ぶほどの力量があるのだろうか？ 62が妥当なのではないか？」

「今後、ダイイチルビーのように年間を通して短距離線で活躍する馬もそうは出てこないであろう。63でよいと思うが。」

結局、ダイイチルビーは前述の成績が評価され、63となった。

次位評価はマイルCSに勝ち、安田記念でも着したダイタクヘリオスであるが、この馬の評価も難しいものになった。



ダイイチルビー

'91年フリーハンデ 短距離

63	※ダイイチルビー
62	◎ダイタクヘリオス
60	外ケイエスマイラクル
59	バンブーメモリー
57	※ニフティニース
56	ジョーロアリング ナルシスノワール
	◎ホリノウイナー
55	ヴァイスシーダー
	◎バリエンター
	◎レオプラザ
54	※カッティングエッジ
	※ハスキーハニー
	※フェイムオブラス リンドホシ
53	カリスタグローリ
	ナイスパワー
52	アンビシャスホープ
	※エイシンウイザード
	※キオイドリーム シンボリガルーダ
	◎トモエリーゼント
	※トウワディステニー
	※プリティハット
	※ミルフォードスルー
	(計25頭)

ダイイチルビーと同じ63を、という声も響いたが、安定感に欠けること、マイルCS勝ちも多分に展開に恵まれたという理由から、ダイイチルビーの1、2下、62で落ち着いた。

4歳馬ながら、夏から秋にかけて短距離

離路線で大活躍したケイエスマイラクルにも高い評価が与えられた。特にダイイチルビーを破ったスワンSでのレコード勝ちは見事なもので、この馬も大台の60となった。

実力馬バンブーメモリーは、今年の評価の対象が安田記念の3着だけ、ということ、90年から大きく評価を下げ、59*になった。

夏の新潟から、秋のセントウルSまで3連勝を飾ったニフティニースも関東馬では最高の57*と高い評価を得た。牝馬では90年に56*を与えられたシンウインドよりは上という評価であった。

この馬の場合、故障のために秋のG1路線に出走できなかったことが本当に惜しまれる。

3歳馬

ミホノブルボンとニシノフラワー、牝牝のチャンピオンはともに56キ。

91年度より3歳戦のレース体系が変わり、牡馬、牝馬それぞれに東西統一のNO.1決定戦が行われるようになったが、このフリーハンデでは従来通り東西別にランクすることとした。

56*には、阪急杯のジョーロアリング、東京新聞杯のホリノウイナー、スプリングターズS2着のナルシスノワールの3頭の関西馬がランクされた。

関東の牡馬陣は安田記念4着のレオプラザ、京王杯オータムHのバリエンターが55*にランクされた。

またケイエスマイラクル以外の4歳馬では、ニュージラントトロフィー4歳Sに勝ったヴァイスシーダーが55*の評価を得た。

この部門でも、西と東の格差がはっきりと出るようになった。

なお、54*以下の馬に関しては別表を参照していただきたいが、この部門でも関西馬と牝馬の活躍が目立った一年であったと言えるであろう。

さて、91年度は3歳の10重賞競走全てを関西馬が制した。もちろん、これは過去に一度たりとも例のない事態である。その要因としては、輸送競馬に対する関西の調教師の新しい認識が生まれてきて

91年フリーハンデ

3歳馬(東)

3歳馬(西)

56

55

54

53

52

51

50

- 外 エービージェット
- ※父 サンエイサンキュー
- ※外 シンコウラブリイ
- 父 エアジョーダン
- オンエアー
- ※父 ゴールデンソネット
- 父 シャートストーン

- クリトライ
- ゴールドディスク
- 父 シービーゲイル
- 父 タケデンジュニア
- ハヤトラ
- 父 ハヤノライデン
- 父 ベンチャーキング

- 父 アルティラード
- ※アワプランタン
- ※エアボーリヤ
- サウスオー
- ※父 サクラエンドレス
- ※外 サブミッション
- ※ジュピターガール
- 父 セキテイリュウオー
- タイガーエース
- 父 ダッシュフドー
- ナナヒカリ
- ノーパススクリーン
- ※パーシャンスポット
- 父 ハーバリファール
- ※外 ピアプリマドンナ
- ※ヒトメボレ
- ※外 プロストライン
- ※父 ベルチャイルド
- 父 マイネルアーサー
- 父 マイネルコート
- 父 マイネルヤマト
- 父 ミヨウジンライコー
- ※モンテカモン
- ※父 ユメノトピラ
- ※外 ユーコーハイレディ
- ライスシャワー

(計40頭)

- ※ニシノフラワー
- ミホノブルボン
- ヤマニンミラクル
- ノーザンコンダクト
- シンクタモンオー
- 父 スタントマン
- マチカネタンホイザ
- ※父 ユートジェーン
- ※アトムピット
- アラシ
- ※父 エイシンモモ
- ※エリザベスローズ
- ※コガネテスコ
- ※タイドリーマー
- 父 ツルマルタカオー
- ※ディスコホール
- ※デーエスソロン
- 父 ヒッタイトシューザー
- マヤノベトリュウ
- マルブツエンペラ
- ※アドラブル
- イイデザオウ
- ※父 エイシンテネシー
- ※父 サツマコムスメ
- ジョージティムス
- シンボリシンホニー
- ※父 ダイイチランナー
- 父 チアスホープ
- トキオレジェンド
- ナリタヒーロー
- 父 ハギノグランドール
- 父 ヒシマサル
- 父 フジノガイカ
- ※フリークフィールド
- ポットリチャード
- マイネルロゼッタ
- 父 マルブツピンスキー
- ※ミヤビサクラコル
- ランスオブスリル
- ワンステップアップ
- アクシオンシン
- ※父 アララットサン
- ※父 サザンリード
- サークルワンダー
- 父 ジャパンアロッキー
- 父 ダイイチロッキー
- ※父 タイトゥルー
- ※父 トウカイグリーン
- 父 ナリタコンドル
- 父 ナリタタイセイ
- ※ピワテースト
- ※ブルーファリー
- 父 マイネルクラウン
- マロンデューク
- ※父 ムーディトウショウ
- ※父 ヤマニンドリーマー
- 父 ヤマフエスパシオン
- ※ヤングオトヒメ
- 父 ヤングファイター
- ※ラックムゲン

(計60頭)

いることが指摘された。そして、一番の原因はやはり、坂路、ウッドチップコースという栗東独自のトレーニング施設が3歳馬の調教に適合し、その威力を發揮しはじめているからであることは、全員的一致した見解であった。

坂路とウッドチップコースは若い3歳馬の調教法としては、下肢部に過度な負担をかけずに心肺筋機能を鍛練できるという利点があり、その成果は関西馬に概して見られる最後の直線での伸び脚に最もよく現れている。現在の東西格差は4歳になっても、あまり変化しないのかもしれない。

トップハンデの56には、牝牡それぞれチャンピオンホースが順当にランクされた。

阪神3歳牝馬Sを含め4戦4勝、重賞3連勝が光るニシノフラワーは、85年のダイナアクトレス、79年のラフォンテールの55を上回り、72年のキシユウローレル(阪神3歳Sを含め4戦4勝)と並ぶ、牝馬としては最高級の評価が与えられた。

戦ったメンバーのレベルも高く、決して一介のスピード馬ではないことから、距離が延びても期待できる点も高く評価された。現時点では、牝馬を含めて一番強いのではないかと、という意見も出た。91年のニホノフラワーが残した戦績は最大級の評価を与えてもいい。

朝日杯3歳Sの覇者ミホノブルボンは、3戦した全てのレースの勝ちっぷりに高い評価が与えられた。すなわち3歳

戦としては過去最高の上がり3ハロン33秒1でレコード勝ちした東京でのデビュー戦、大差勝ちを演じた東京での2戦目として、ヤマニンミラクルに競り勝った朝日杯3歳Sと、この馬の示した完成度は、90年のビッグファイト、89年のアイネスフジンの55を上回り、テンポイント、サッカーボーイ、リンドシエーバーと並ぶ56が与えられた。

上位2頭に続く評価を得たのが京成杯3歳Sのヤマニンミラクル。京成杯で見せた府中の坂を駆け上がる時のピッチ走法は、現在の関西馬の実力を如実に示すものであった。将来性ということに関しては、朝日杯で負けたミホノブルボンより上、という意見もあった。

同じく将来性という面では、ラジオたんば杯3歳Sのノーザンコンダクトも高い評価が与えられた。特に、このレース

て見せた末脚の切れ味は、3歳馬らしくならぬものであった。この馬は実績に将来性も加味して、54が与えられた。

53に並んだのが、府中3歳Sのマチカネタンホイザ、京都3歳Sのスタントマン、小倉3歳S(GIII)のシンクタモンオー、新潟3歳S(GIII)のユートジェーンの4頭の関西馬と、朝日杯3歳S3着のエービージェット、阪神3歳牝馬S2、3着のサンエイサンキュー、シンコウラブリイの3頭の関東馬。関東馬はこの3頭が最高ランクであった。

52以下の馬に関しては別表を参照していただきたいが、例年東西ではほぼ同数の馬がリストアップされるが、91年は関東馬40頭に対して関西馬が60頭となった。